

南浜地区倉庫群

内陸の鉱山から小樽港に石炭を輸送するため 1882 年に北海道初の鉄道が開業し、この町の経済と人口は急成長しました。拡大する港の需要を満たすため、新たな土地が海沿いに造成されました。1889 年には、埋め立て地に堺町、色内、北浜、南浜という新しい地区が誕生し、この町の商業中心地となりました。20 世紀初めには、卸売業者が南浜地区の堺町通りに倉庫や商店を建て、その多くは現在も残っています。

一部の卸売業者は北海道産の豆類などの生活必需品に投機しました。彼らはこれらを大量に安く買い付け、その後価格が上がる時まで貯蔵することで財を成しました。旧木村倉庫、旧嶋谷倉庫、旧高橋倉庫は小樽の過去の繁栄を思い起こさせるものであり、この町の近年の経済復興のシンボルとして存在しています。

旧木村倉庫

木村倉庫は 1894 年に建てられ、木村家が所有していた 9 つの倉庫のうち唯一現在も残っている倉庫です。当初は小樽沖の海域で漁獲されたニシンから作られた肥料を貯蔵するために使用されていました。肥料は本州南西部の藍畑や綿畑に出荷されました。この倉庫には、手車用のガイドレールを取り付けた港から倉庫までつながっている石の廊下など、元々あった多くの特徴が残っています。20 世紀半ばに乱獲によりニシン産業が衰退すると、乾物を貯蔵するためにこの倉庫を使用するようになりました。主要港としての小樽の地位はだいに消え去り、1960 年代までに、このあたりの他の多くの倉庫や商店と同じように、木村倉庫はもぬけの殻となりました。この倉庫は 1983 年に北一硝子により改修され、小売店兼レストランとなりました。この歴史建造物の改修と再利用が成功を収めた後、他の企業も堺町通り沿いや小樽運河近くの旧倉庫をオープンさせ、魅力的なショッピングエリアを作り上げました。

旧嶋谷倉庫

嶋谷倉庫は 1892 年に蒸気船会社である嶋谷汽船のために建てられました。この倉庫は、凝灰岩を木の骨組みに固定して造られています。石の厚みは 15 センチほどで、上部にある小窓には鋼製の鎧戸と扉が取り付けられており、火災から建物の内部を守る役割をしていました。1880 年から 1910 年にかけて、小樽では大火災が 16 回発生しました。この火災により木造建造物は壊滅しましたが、嶋谷倉庫やこの町周辺の他の石造り倉庫は、ごくわずかな被害ですみました。この倉庫は、現在カフェとして一般に公開されています。

旧高橋倉庫

高橋倉庫は米や海産物を販売し、味噌や醤油を生産していた高橋家により、1923 年に建てられました。高橋家は、20 世紀初めに、生活必需品に投機すること、つまり、小豆を買い占め、その後

価格が上がるときまで貯蔵してから販売して利益を得ることで、財を成しました。この倉庫は 1989 年に改修され、ステンドグラス美術館としてオープンし、イギリスやヨーロッパの教会で実際に使用されていたものを元の状態に修復したステンドグラス窓を展示しています。